

## 第278回原医研セミナー

### 第42回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2026年3月24日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

---

タイトル：Development of a Long-Term Cardiovascular Disease Risk Prediction Model After a Disaster: The Fukushima Health Management Survey

発表者：福島県立医科大学 医学部 疫学講座

（兼務）放射線医学県民健康管理センター疫学室

助教 佐藤 志帆 先生

心血管疾患（CVD）は災害間接死の主要な要因の一つであり、大規模災害後には長期避難や生活環境の変化、心理的ストレスなどにより増加する。しかし Framingham スコアや吹田スコアなど既存の CVD リスク予測スコアは一般集団を対象としており、災害特有の要因を反映していない。また避難者の短期 CVD リスクを予測する AFHCHDC7 スコアがあるが、長期予測を対象としていない。本研究では福島県民健康調査コホートをを用い、従来の CVD 危険因子と心理社会的指標を統合した災害後長期 CVD リスク予測モデルの開発を目的とした。2011 年度の特定健診およびこころの健康度・生活習慣調査に参加した 30～79 歳の CVD 既往のない 16,532 人を対象に 9 年間追跡し、心筋梗塞または脳卒中発症をアウトカムとした。ステップワイズ回帰、Lasso 回帰、ランダムフォレストの 3 手法で解析した結果、性別、喫煙、高血圧、糖尿病、心疾患に加え、睡眠の質、主観的健康観、心理的苦痛が重要な予測因子として選択された。これらで構成された新規スコアは既存スコアより高い識別能を示した。

タイトル：Positive association between iodine intake and the presence of thyroid cysts: a cross-sectional study of population aged  $\geq 60$  years in Japan

発表者：長崎大学原爆後障害医療研究所 健康社会統計学分野

研究機関研究員 大石 紘大 先生

甲状腺嚢胞は頸部超音波検査で最も頻繁に発見されるが、自然経過や生理的意義は十分に解明されていない。嚢胞内部はサイログロブリンを豊富に含む液体で満たされており、ヨウ素摂取量との関連が示唆されている。本研究ではヨウ素摂取量と嚢胞の存在との関連を明らかにすることを目的とした。住民基本健診において頸部超音波検査を受診した 60～90 歳の一般住民 498 人を対象に横断研究を実施した。ヨウ素摂取量は随時尿の尿中ヨウ素濃度（UIC）で評価した。その結果、嚢胞をもつ者の UIC の中央値は 220.0  $\mu\text{g/L}$  であり、嚢胞をもたない者の 168.0  $\mu\text{g/L}$  よりも有意に高かった（ $p=0.035$ ）。他の変数の影響を調整したロジスティック回帰分析でも、UIC と嚢胞の存在との間に有意な正の関連が認められた（オッズ比：1.60、95%信頼区間：1.10-2.34）。ヨウ素摂取量が多いことは嚢胞の存在に関与する可能性があり、加齢に伴い低下する甲状腺ホルモンの働きを調整する役割をもつ可能性が示唆された。